

# 被災地を支援 医師が提言

## 西宮、尼崎フォーラム開催へ

東日本大震災の被災地と連帯する市民フォーラム「今、阪神から東北にできること」(阪神から東北を支援する会主催)が18日に西宮市内、7月9日に尼崎市内で開かれる。現地入りした尼崎市の医師の提言と記録映画の試写会で現実的な支援を考える。

### 東日本大震災

本紙兵庫総合面の連載「Dr.和の町医者日記」を執筆している同市昭和通、長尾クリニックの長尾和宏院長が4月28日から8日間、被災地に入り、避難所や病院の巡回診療をはじめ、被災者の話し相手になる傾聴ボランティアなどに取り組んだ活動報告とともに、今後被災者に必要な治療など

について提言する。さらに、被災地の惨状と被災者の生の声を収録した記録映画「無常素描」(大宮浩一監督、東風配給)を上映。企画した長尾院長が福島県三春町の住職で芥川賞作家であり、東日本大震災復興構想会議委員の玄侑(みづろ)宋久さんと対談した様子、被災住民にやさしく接して揺れ動く心境を聞き出す傾聴ボランティアの役割の大切さなどを描いている。



記録映画「無常素描」のワンシーン (大宮映像製作所提供)

長尾院長は「映画は震災から49日目の被災3県の記録。『現実』を演出なしの映像から『感じて』もらい、これからの支援に活かしてほしい」と力説する。18日は西宮市北口町のアクタ西宮東館・大学交流センター、7月

9日は尼崎市東難波町の労働福祉会館で。いずれも参加無料、午後1時から。先着各100人。問い合わせは長尾クリニック(☎06・6412・9012)。